

令和3年度小中一貫教育推進計画書

中学校区名	音戸中学校区
代表者所属校 校長氏名	呉市立音戸小学校 高橋 智子

1 目指す児童生徒像 ふるさとを愛し、自律できる児童生徒

2 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資 設 定 し 能 た 力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	協働的に関わる力	地域の一員として 関わる力
後期	各教科等に関する個別の知識や技能などを確実に身に付けている。	目的に応じて適切な調べ方を選択して集めた情報を批判的に分析・整理して、効果的に表現することができる。	様々なコミュニケーションを通して、思いや考えを認め合いながら協働して課題を解決することができる。	呉・音戸の一員として課題の解決に向けて、地域社会に参画しようとする。
中期		目的に応じて調べ方を工夫し、収集した情報を目的意識や相手意識を持ちながら分析、整理して、表現することができる。	コミュニケーションを通して、互いの良さを生かし、協働して解決することができる。	呉・音戸の一員として課題の解決に向けて、自分ができようことを考え、実践しようとする。
前期		多様な調べ方を知り、収集した情報を比較したり、関係付けたりしながら分析して、整理することができる。	他者とコミュニケーションをとりながら、協働して、課題を解決することができる。	学んだことを自分の生活や地域（音戸）のために生かそうとする。

3 研究主題と設定理由

(1) 研究主題 主体的に学ぶ児童生徒の育成

～「育成すべき資質・能力」の向上をめざした単元づくり・授業づくりを通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

昨年度は「育成すべき資質・能力」の重点項目として「思考表現する力」の向上をめざした学習者基点の単元づくり・授業づくりに取り組んだ。「思考表現する力」のルーブリックを作成して教師自身が自己評価を行うとともに、児童生徒も学習のめあてを持たせてルーブリックで自己評価をさせた。さらに、授業にグループトークやタブレットを積極的に取り入れることで児童生徒の「思考表現する力」の向上を図った。また、音戸中学校区児童生徒の課題として、「自己を表現すること」への苦手意識、「自己肯定感」の低さがあり、学年が上がるにつれ、その傾向が強くなることから、自己肯定感に関するルーブリック評価を行った。具体的な取組としては、9年間に渡る生活科・総合的な学習の時間における地域（呉・音戸）を中心とした「人・もの・ことに関する探究的な学習」を通して、自己を知り振り返る機会を設けた。さらに、情報を分析したり整理したりする活動を取り入れることで、「思考表現する力」の向上も目指した。

その結果、「思考表現する力」の教師と児童生徒のルーブリック評価でB以上の肯定的評価をした割合は、3校の平均が84.8%であった。交流方法の工夫で児童生徒の思考力を広めることはできた。しかし、児童生徒の思考力を深めることには課題が見られた。児童生徒の自己肯定感において肯定的評価をした割合は、小学校は80%以上であったが中学校は

70%以上であった。

これらのことから、今年度は「思考表現する力」に判断力を加えた「思考力・判断力・表現力」を中心とする資質・能力の向上を目指した「学習者基点の単元づくり・授業づくり」を重点項目として取り組んでいく。児童生徒の思考力を深める手立てとして、授業に「考えなくなる課題」「考え、表出する場」「考えの変容を自覚させる工夫」を設定する。また、今後も児童生徒の自己肯定感を高めることにより、第9学年の終わりには自分の生き方について考えてその価値を見出し、自信をもって自己を表現できるようにさせる。

なお、昨年度の取組を踏まえ、今年度は中学校区で次のような取組を行う。まず、小小連携交流の内容を見直して実践すること。次に中学校区の各部会の取組を継続すること。具体的には、「生活向上部会」「生徒指導主事部会」で生活リズムの確立・生徒指導上の課題解決を継続して行い、「学力向上部会」で各教科・総合的な学習の時間での実践を積み上げながら、「育成すべき資質・能力」のうち「思考力・判断力・表現力」の向上をめざした課題発見解決学習の単元づくり・授業づくりを行っていく。

#### 4 研究内容

##### (1) 「育成すべき資質・能力」の向上をめざした単元づくり・授業づくり

「学力向上部会」には養護教諭以外の全員が所属し、「育成すべき資質・能力」のうち「思考力・判断力・表現力」の向上を目指し、主体的な学びを促進する授業づくり（「学習者基点の授業づくり」）を実践し、教師用・児童用のルーブリック評価を行う。

##### (2) 生活リズムの確立と電子メディアコントロール

「生活向上部会」を養護教諭・教務主任又は研究主任で構成し、生活リズムの確立と電子メディアコントロールによって家庭教育支援を行うとともに、家庭学習の習慣化につなげる。

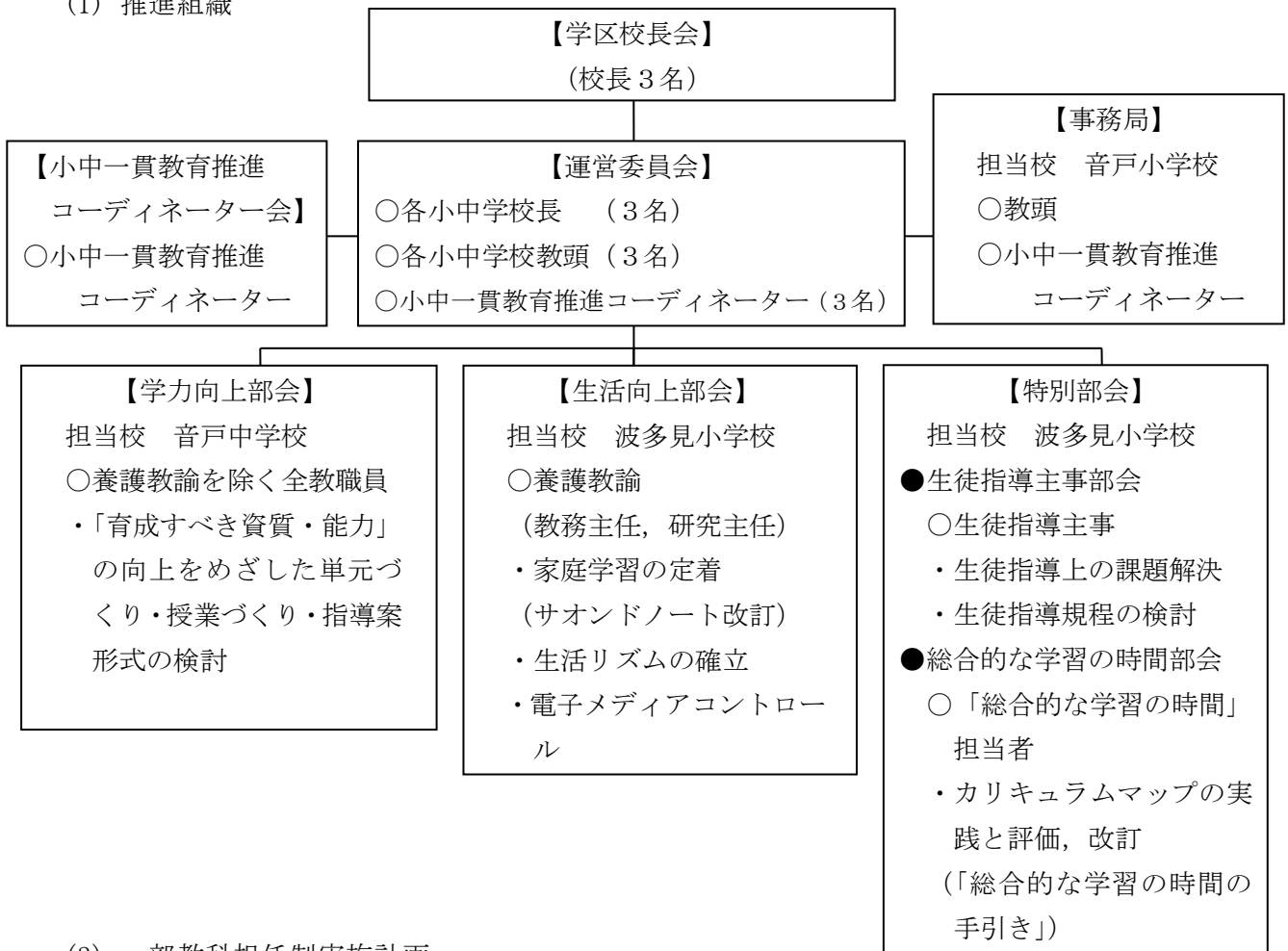
##### (3) 児童生徒の課題把握と生徒指導

「生徒指導主事部会」を生徒指導主事で構成し、「小中合同いじめ撲滅キャンペーン」「小中合同挨拶運動」に取り組む。また、各校の「生徒指導規定」を共有するとともに、各校の生徒指導上の課題を把握し、共通認識をもって課題の解決に取り組む。

##### (4) 総合的な学習の時間の評価と改訂

「総合的な学習の時間部会」を総合的な学習の時間の担当で構成し、「生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムマップ」の実践に関わる評価、加筆修正を行う。

5 推進体制  
(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業 (中→小, 小→中)  
(中→小)  
(小→中)

- ・中学校の夏休みの学力補充支援

イ 小学校教科担任制等

- ・波多見小 第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年 (理科)  
第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年 (音楽)
- ・音戸小 第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年 (理科)  
第5学年, 第6学年 (家庭科)  
第1学年, 第2学年, 第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年 (音楽)

6 見込まれる成果及び検証方法

(1) 見込まれる成果

「中学校区で育成すべき資質・能力」の児童用, 教師用ルーブリックを作成して, 音戸中学校区授業モデルに基づいた主体的な学びを促進する授業 (学習者基点の授業) を創造していくことにより, 小中9年間を通して身に付けるべき資質・能力の「思考力・判断力・表現力」の向上が見られるであろう。

(2) 検証方法

① 各教科や総合的な学習の時間において, 課題発見・解決学習を行う。単元を年間に2つ設定し, 実践する。

「思考力・判断力・表現力」の向上を目指して作成したルーブリックによる授業者の自己評価  
「思考力・判断力・表現力」の向上を目指して児童生徒用に作成したルーブリックによる児童生徒の自己評価

【達成目標】

- ・ B 評価以上の教員の割合が80%以上
- ・ B 評価以上の児童生徒の割合が80%以上

② 自己肯定感の調査

【達成目標】

- ・ 1～6年生は、85%以上
- ・ 7～9年生は、80%以上

7 推進計画

月 日	内 容
4月	○学区校長会 ○小中一貫教育推進コーディネーター会 ○小中一貫教育推進協議会総会
5月	○学区校長会 ○運営委員会
6月	○学区校長会 ○小中一貫教育推進コーディネーター会 ○第1回小中合同授業研究会・学力向上部会（波多見小研究授業）予定
7月	○学区校長会 ○運営委員会
8月	○生活向上部会 ○特別部会（生徒指導主事部会） ○特別部会（総合的な学習の時間部会）
9月	○学区校長会 ○小中一貫教育推進コーディネーター会
10月	○学区校長会 ○小中一貫教育推進コーディネーター会 ○第2回小中合同授業研究会・学力向上部会（音戸中研究授業）予定
11月	○学区校長会 ○第3回小中合同授業研究会・学力向上部会（音戸小研究授業）予定
12月	○学区校長会
1月	○生活向上部会 ○特別部会（生徒指導主事部会） ○特別部会（総合的な学習の時間部会）
2月	○学区校長会 ○運営委員会 ○小中一貫教育推進コーディネーター会 ○小中一貫教育推進協議会全体会
3月	○学区校長会

8 その他

- ・ 小中一貫だより 学期に一回発行
- ・ 挨拶運動
- ・ 中一里帰り

※ カリキュラムマップを添付する。